

講師プロフィール



松本 俊彦 [まつもと としひこ]
Toshibiko Matsumoto
精神保健研究所
薬物依存研究部 部長

1993年佐賀医科大学卒業。国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所司法精神医学研究部室長、同自殺予防総合対策センター副センターなどを経て、2015年より現職。2017年より国立精神・神経医療研究センター病院薬物依存症センター長を兼務。
専門：薬物依存症、自殺予防



岩坪 威 [いわつぼ たけし]
Takeshi Iwatsubo
神経研究所長・理事

1984年東京大学医学部卒業。神経内科医として診療にあたる中、認知症をはじめとする神経変性疾患の病因解明と治療法開発を志して研究者に転向。東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野教授（現職）。2020年NCNP神経研究所長。アルツハイマー病の大規模臨床研究「J-ADNI」の主任研究者、アルツハイマー病治療薬「レカネマブ」の治験データ解析チームメンバーも務めている。日本認知症学会理事長。
専門：神経病理学



橋本 唯史 [はしもと ただふみ]
Tadafumi Hashimoto
神経研究所
疾病研究第四部 部長

2001年東京大学大学院薬学系研究科博士課程中退、2006年同大学で博士号を取得。東京大学大学院薬学系研究科助手、米国マサチューセッツ州総合病院リサーチフェロー、東京大学大学院医学系研究科助教、同特任准教授を経て、2021年より現職。他に東京医科歯科大学連携教授、信州大学特任教授を兼任。
専門：神経変性疾患の病態生化学



藤井 千代 [ふじい ちよ]
Chiyo Fujii
精神保健研究所
地域精神保健・法制度研究部 部長

1993年防衛医科大学校卒業。2001年慶應義塾大学大学院修了。自衛隊中央病院、慶應義塾大学病院、埼玉県立大学での勤務を経て、2013年よりNCNP精神保健研究所司法精神医学研究部室長、2015年より現職。
専門：精神科リハビリテーション、地域精神保健、社会精神医学



栗山 健一 [くりやま けんいち]
Kenichi Kuriyama
精神保健研究所
睡眠・覚醒障害研究部 部長

1999年筑波大学医学専門学群卒業、2003年東京医科歯科大学大学院修了。ハーバード大学医学部留学、NCNP精神保健研究所成人精神保健部室長、滋賀医科大学精神医学講座准教授を経て、2019年より現職。
専門：睡眠医学、臨床精神医学、生理学、認知神経科学



金 吉晴 [きん よしはる]
Yoshitaru Kim
精神保健研究所長

1984年京都大学医学部卒業。1990年NCNP精神保健研究所研究員、ロンドン精神医学研究所、2002年NCNP精神保健研究所成人精神保健部長、2011年NCNPストレス・災害時こころの情報支援センター長（併任）2019年より現職。ニューヨーク大学adjunct professor、東京大学連携教授、慶応義塾大学特別招聘教授等を歴任。
専門：PTSDの病態と治療、災害時精神医療



西 大輔 [にし だいすけ]
Daisuke Nishi
精神保健研究所
公共精神健康医療研究部 部長

2000年九州大学医学部卒業。2010年同大学で医学博士号を取得。国立病院機構災害医療センター精神科科長などを経て、2012年国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所室長、2018年東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野准教授、2021年より現職。2022年東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授（併任）。
専門：精神保健学

NCNPとは？



研究と医療が一体となった国立高度専門医療研究センター

〈基本理念〉

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、および発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る。

お問い合わせ先

NCNPメディア塾事務局 担当：荒木・青木（株式会社ココノッツ）

TEL：03-5212-4888 080-7263-9886 FAX：03-5212-4887 E-mail：mediaseminar@cocoknots.co.jp

NCNPメディア塾ホームページでもお知らせします ▶ <https://www.ncnp.go.jp/about/mediaseminar.html>

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（NCNP）主催

第9回 NCNPメディア塾

受講生募集のご案内

2023年9月1日（金）開催

脳とこころの問題と 社会のあり方を考える



精神・神経領域における最先端の研究や取り組みを学び、第一線の研究者や医師たちとジャーナリストが熱く交流する「NCNPメディア塾」。第9回NCNPメディア塾は3年ぶりに現地にて開催いたします。講義と研究施設見学を合わせたプログラム構成で、社会的関心の高いテーマについて立体的な情報交換の場を目指します。



国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry

ジャーナリストとNCNPの共創の場

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (NCNP) は、精神・神経・筋の疾病・発達障害の克服を目指すナショナルセンターです。最先端の医療と研究に取り組むとともに、信頼性の高い医療情報を国民にお届けすることを使命としています。

「NCNPメディア塾」は、ジャーナリストの皆さまに精神・神経領域の取材を行うときに理解しておくべき最新の専門的かつ基本的知識を学んでいただき、国民の求める医療報道のあり方を第一線の研究者・医師と共に考える場として2014年に始まり、今年で9回目を迎えました。

今年のメディア塾は、市販薬の乱用・依存の精神医学的問題、アルツハイマー病の治療と研究、精神医療と法律の関り、児童期の逆境体験が及ぼす精神への影響と複雑性PTSDの治療、安心して暮らせる地域を作り出す「こころのサポーター養成事業」の講義を予定しております。また、施設見学では新しい睡眠の評価手法である「睡眠休養感」を開発中の睡眠研究の施設をご覧頂く予定です。今年も多彩な“見る・分かる”カリキュラムを通じて、ジャーナリストの皆様との意見交換の場を創造いたします。医療の取材・報道をされるジャーナリストの皆さまのご参加をお待ちしております。

対象者

- 医学・医療情報について継続的な学習を希望し、情報発信されているテレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社などの記者、ジャーナリスト

講座概要

- 日 程:** 2023年9月1日 (金) **時 間:** 9:10~17:25 **定 員:** 30名
会 場: 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール
 東京都小平市小川東町4-1-1
料 金: 受講のみ無料 交流会ご参加の場合 (食事代 (昼・夜) 含む) 1,000円 (税込み)
 ※研修会場までの交通費、交流会ご参加されない方の飲食等は各自でのご負担になります。

プログラム終了後、17:25より懇親を兼ねた交流会を予定しております (有料)。奮ってご参加ください。

NCNPへのアクセス

- 西武拝島線/西武多摩湖線「萩山駅」(南口) 下車 徒歩7分
- JR武蔵野線「新小平駅」下車 徒歩10分
- 無料シャトルバスを運行、病院玄関前に到着します。
 - JR 新小平駅発 8時15分、8時45分 (青梅街道沿い (都営・西武) バス停前がバス乗り場になります。)
 - 西武新宿線 萩山駅発 8時30分 (バス停: 萩山駅南口 エレベーター前)

申込方法

- 参加ご希望の方は、こちらのURLもしくはQRコードから申込みフォームにアクセスし、お申込みください。

<https://forms.gle/ftTzehlDeomBaCeA>



	時間	テーマ/内容	講師
	09:10	司会挨拶・オリエンテーション	
	09:20	はじまりのご挨拶	
1	09:30 ~ 10:20	ドラッグストアで買える「ドラッグ」とは? ~「捕まらない薬物」~ これまでわが国最大の乱用薬物といえば覚醒剤でした。しかし、現在、覚醒剤に代わって舞台中央へと押し出され、日々臨床現場で専門家の頭を悩ませているのが「捕まらない薬物」— 処方薬や市販薬などの医薬品です。なかでも、市販薬乱用は10代を中心とした若年者で深刻な様相を見せており、児童・生徒の自殺者数総数増加とともに、現在の若者が抱える「生きづらさ」の映し鏡となっています。本講義では、市販薬の乱用・依存を中心に取り上げ、その精神医学的問題、さまざまなステークホルダー (政府や製薬メーカー、ドラッグストアチェーンなど) の問題を指摘していきます。	松本 俊彦
2	10:30 ~ 11:20	アルツハイマー病克服への挑戦 認知症700万人時代を迎え、その過半数を占めるアルツハイマー病の治療・予防に向けて、原因となるアミロイドβを除去する抗体薬の実用化が2023年に大きく進もうとしています。抗Aβ抗体薬をはじめとする「疾患修飾薬」とはどのようなものか、治験ではどんな効果が実証されたのか、アミロイド関連画像異常 (ARIA) などの有害事象にはどのような対策がとられるのか、医療提供と医療経済をめぐる課題、そしてNCNPが本邦のアルツハイマー病研究・治療において果たす役割について、最新の情報に基づき論じます。	岩坪 威
3	11:30 ~ 12:20	アルツハイマー病の“種”を見つける 認知症の克服は人類の大きな課題です。アルツハイマー病の患者脳では、線維化したアミロイドβ (Aβ) から老人斑が出現し、神経変性が引き起こされると考えられていますが、なぜ老人斑が出現するかは不明です。私たちは患者やモデルマウスの脳内から微量なAβ重合体を見つけ、これを接種したマウスでは老人斑を形成したことから、このAβ重合体は老人斑の“種”となることを明らかにしました。本講義ではこの“種”の話を中心に、アルツハイマー病の発症機序と基礎研究について紹介します。	橋本 唯史
	12:50 ~ 13:20	ランチタイムセミナー 精神科医療の「これまで」と「これから」— 法改正で何が変わるのか? 先進諸国の中で大きく遅れをとっていると、しばしば批判される日本の精神科医療。国連障害者権利委員会による障害者権利条約の対日審査でも、精神科医療に関連する厳しい指摘が相次ぎました。精神科病院における虐待事象の報道が社会の耳目を集める中、今年4月より改正精神保健福祉法の一部が施行されています。精神障害をもつ人とその家族、社会のニーズに適切に応えることのできる精神科医療とはどうあるべきか、法改正への期待と課題をお話します。	藤井 千代
	13:30	記念撮影	
	13:40	施設見学プログラムオリエンテーション	
4	13:55 ~ 14:55	施設見学プログラム 睡眠研究施設 質の良い睡眠とは ~睡眠を測る~ 睡眠の質の高さは、健康維持・増進効果を含めて評価すべきですが、こうした観点から睡眠の質を評価する方法の検討は十分にされていません。我々は「睡眠休養感」という、朝目覚めた際に休養が得られた自覚的感覚が、長期的な死亡リスクと関連することを突き止め、これが生理学的評価に基づく睡眠の質とどのように関連するかを検討しています。本講義では「睡眠休養感」の開発過程および生理学的な睡眠評価手法、そして両者の関連性 (整合性) を探るプロジェクトや研究施設を一部ご紹介したいと思います。	栗山 健一
5	15:05 ~ 15:55	複雑性PTSD: 虐待のトラウマ 児童期虐待は令和3年には20万件を超えました。児童期の逆境体験が積み重なると、身体疾患に加えて、うつ病、自殺企図などの精神的問題が増加します。また複雑性PTSDという特殊な形のPTSDが生じることがあり、深刻な自信喪失、対人関係困難、感情制御の問題が出現します。私たちは複雑性PTSDに対して、認知行動療法 (STAIR/NST治療) の有効性を検証し、有効な心理療法の普及と同時に、海馬の情動処理回路のNMDA受容体に作用するメマンチンという薬剤を用いて薬物療法の開発にも取り組んでいます。	金 吉晴
6	16:05 ~ 16:55	NIPPON COCORO ACTION: 心のサポーター養成事業 精神疾患の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができる地域をつくる。こうした社会を目指すため、メンタルヘルスや精神疾患の正しい知識と理解を持ち、地域や職域でメンタルヘルスの問題を抱える人や家族等を手助けできる人々を増やしていく必要があります。そのような通称こころサポーターを養成する「心のサポーター養成事業 (通称: NIPPON COCORO ACTION)」が2021年度から始まっています。本講義では、この養成事業の研修内容や効果、今後の展望等についてお話します。	西 大輔
	17:05	おわりのご挨拶 中込理事長	
	17:10	アンケート	
	17:25	交流会 (多目的室)	全講師出席予定